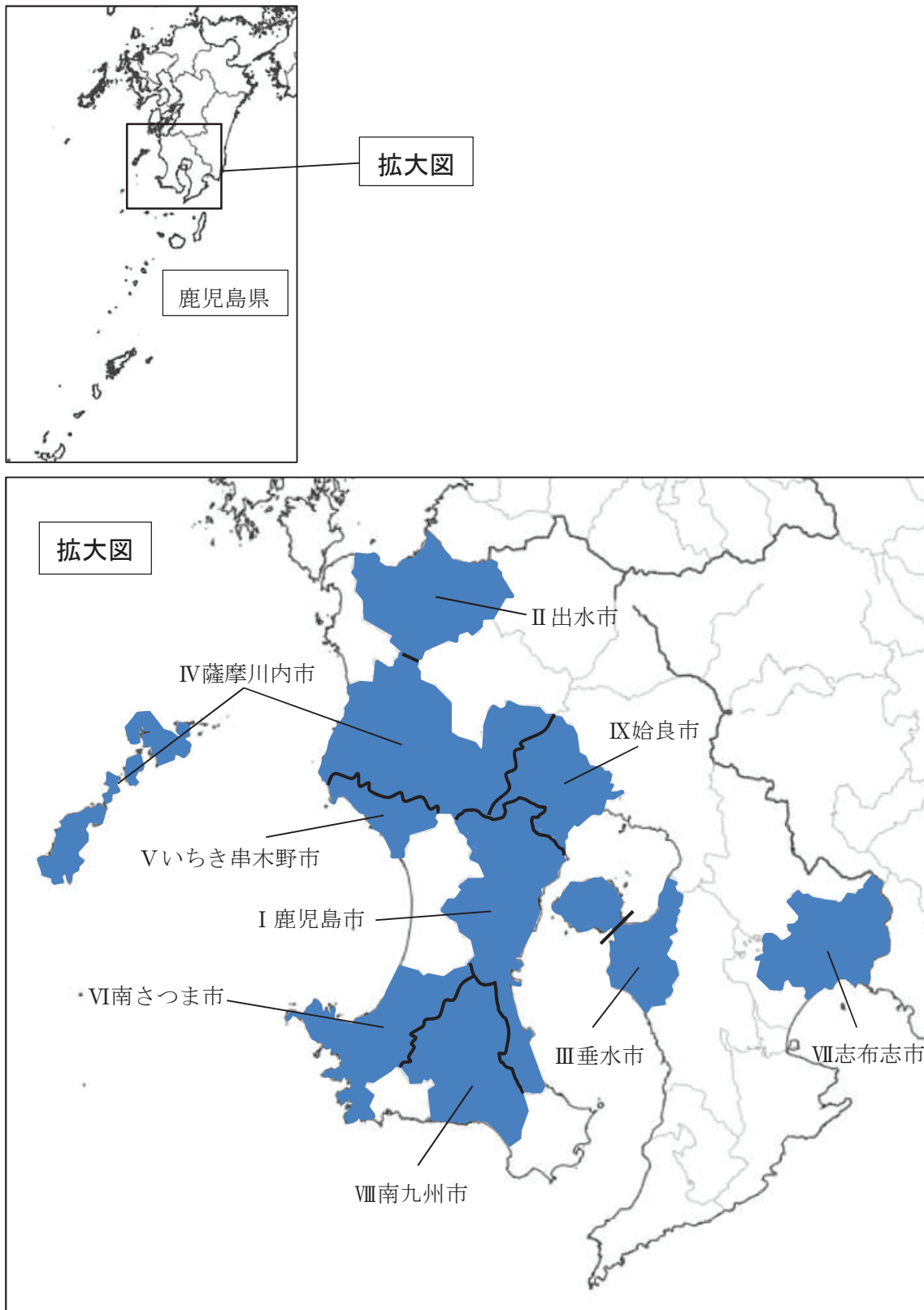


① 申請者	◎鹿児島県（鹿児島市，出水市，垂水市，薩摩川内市，いちき串木野市，南さつま市，志布志市，南九州市，始良市）	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	さつまのぶしがいきたまち ～ぶけやしきぐんふもとをあるく～		
薩摩の武士が生きた町 ～武家屋敷群「麓」を歩く～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>勇猛果敢な薩摩の武士を育んだ地，鹿児島。そこには，本城の鹿児島城跡や，県内各地の山城跡の周辺に配置された麓と呼ばれる外城の武家屋敷群が数多く残っています。</p> <p>麓は，防御に適した場所に作られ，門と玄関の間に生垣を配置する等，まるで城の中のように敵に備えた構造を持っていました。そこでは武士達が，心身を鍛え，農耕に従事し，平和な世にありながら武芸の鍛錬に励みました。</p> <p>鹿児島城跡や麓を歩けば，薩摩の武士達の往時の生き様が見えてきます。</p>			
			
いずみふもと いずみし 出水麓（出水市）	きよしまじょうあと さつませんたいし 清色城跡（薩摩川内市）	ちらんふもと みなみきゆうしゅうし 知覧麓（南九州市）	

※昨年度申請実績

平成30年度申請タイトル
明治維新の原動力・薩摩藩の武士達が生きた町 ～武家屋敷群「麓」を歩く～
変更内容
<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルを短く，わかりやすく変更した。 ・ストーリー及び構成文化財に，外城に対する本城である鹿児島城跡を追加し，ストーリーを理解しやすいように変更した。 ・観光面での活用や民間を巻き込んだ取組が実現できるよう実施体制を充実した。 ・地域の活性化を図るための手法を具体的に記載するとともに，関連する事業を充実した。

市町村の位置図



構成文化財の位置

I 鹿児島市 (鹿児島城周辺地区)



拡大図

かごしまじょういわさきぐちあと
④鹿児島城岩崎口跡



構成文化財の位置

I 鹿児島市（喜入旧麓地区）



拡大図

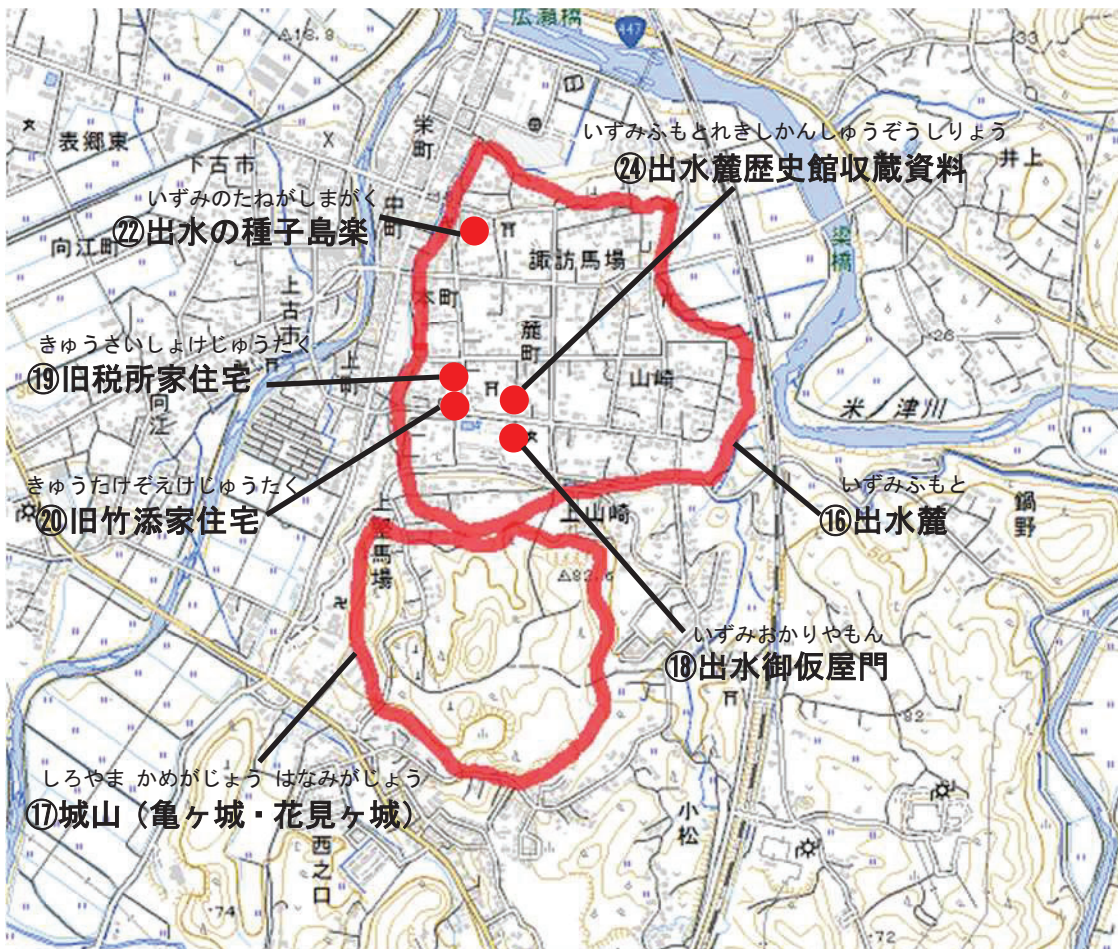


構成文化財の位置図

Ⅱ 出水市



拡大図



構成文化財の位置図

Ⅲ 垂水市



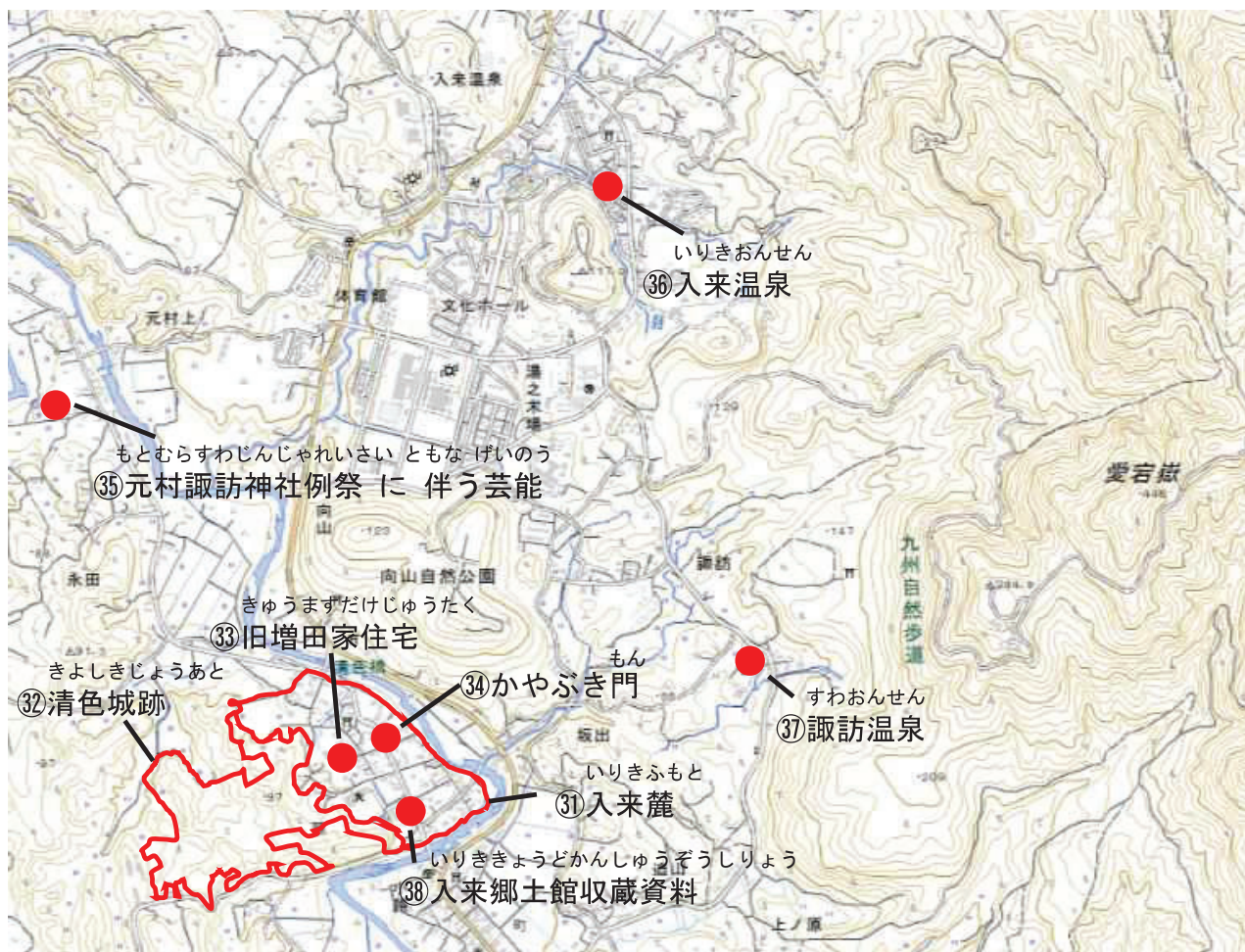
拡大図



構成文化財の位置図
IV 薩摩川内市



拡大図 1



拡大図 2



拡大図 3

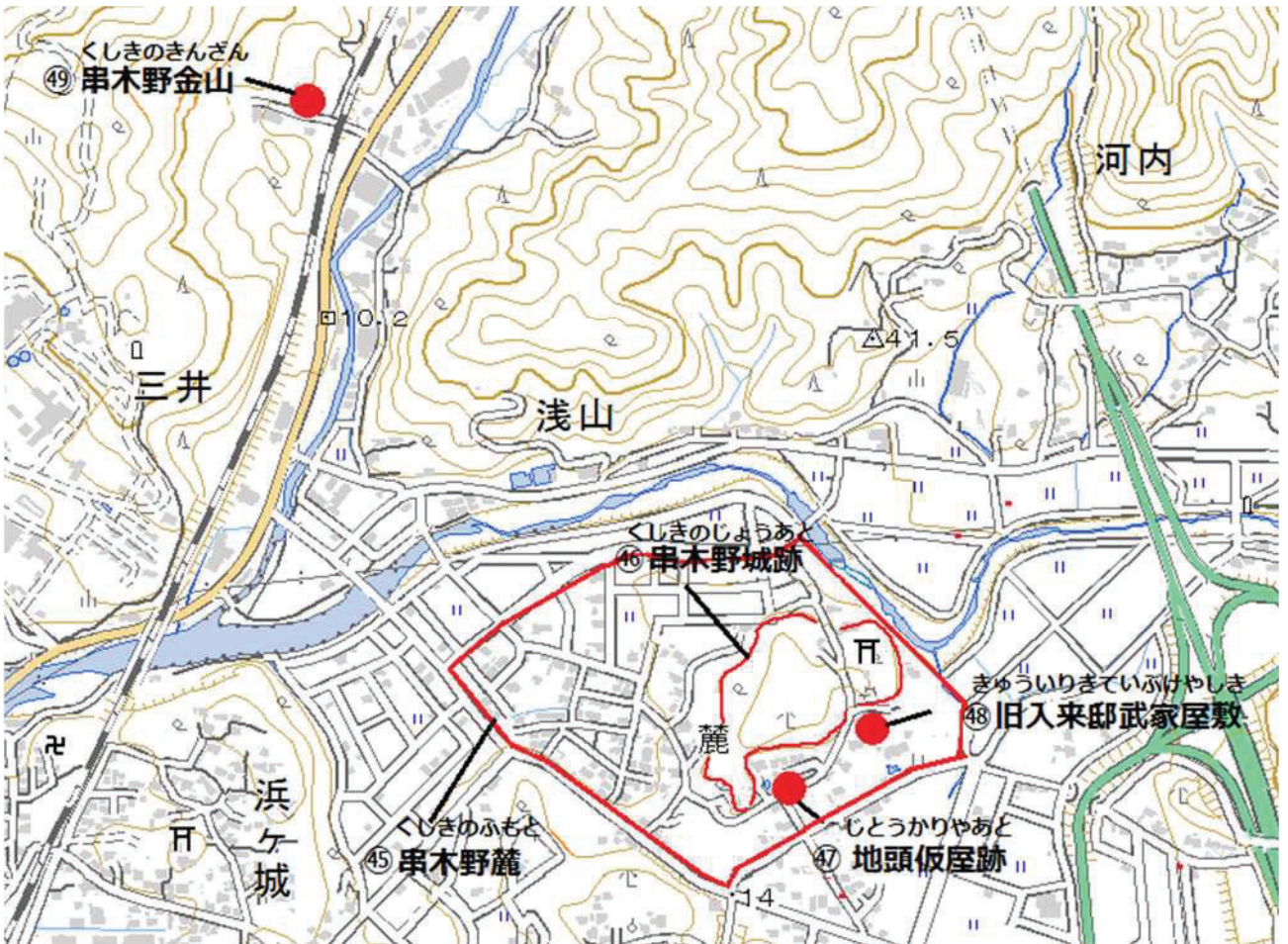


構成文化財の位置図

V いちき串木野市



拡大図



構成文化財の位置図

Ⅵ 南さつま市



拡大図

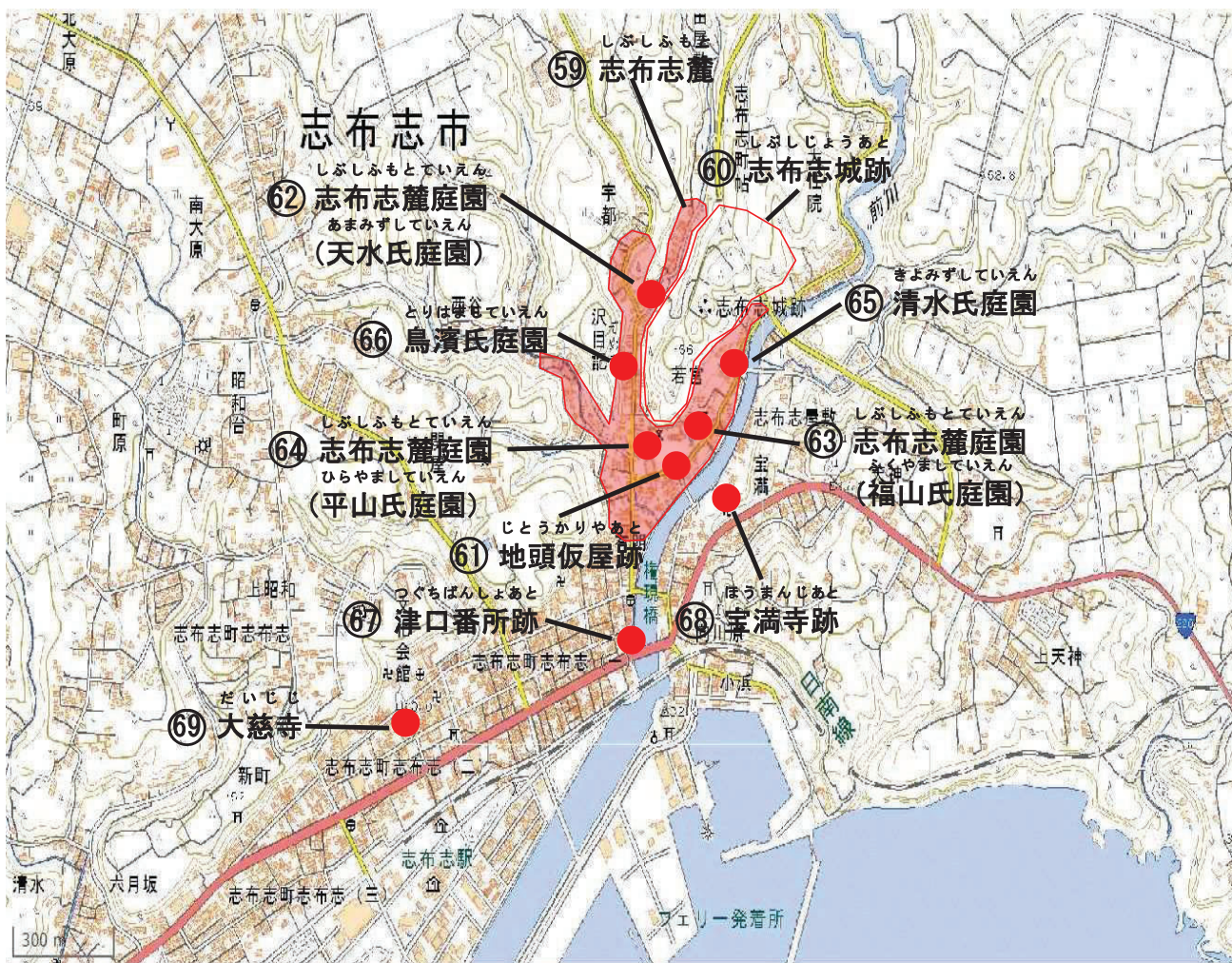


構成文化財の位置図

Ⅶ 志布志市



拡大図



構成文化財の位置図

Ⅷ 南九州市



拡大図



構成文化財の位置図

区 始良市



拡大図 1



拡大図 2



ストーリー

【鹿児島県内の各地に残る山城跡と武家屋敷群】

薩摩の武士というと、勇猛果敢なことで知られており、そのふるさとである鹿児島は、本城の鹿児島城や、中世以来の山城の跡と、その周辺に配置された外城の武家屋敷群とが江戸時代を通じて残り、今も県内各地に数多く残っている全国で唯一の地域です。

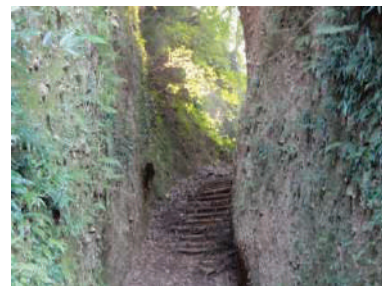


かごしまじょうほんまるあと
鹿児島城本丸跡

鹿児島の県土は、遠い昔に今の鹿児島湾から噴出した火砕流が堆積した、数10mから時には100mを超える厚さのシラスの台地から成っています。このため広い平野部は少なく、薩摩藩内の山城は、このシラス台地を利用して、その端に当たる場所に築かれています。

山城は戦国時代までは日本中にありましたが、江戸幕府の命令で破壊され、一つの藩に一つの城という制度に変わりました。ところが薩摩藩では、破壊すると田畑に土が流れてくるので破壊できないと幕府に言い訳し、山城を破壊しなかったため、15mを超えるような空堀に囲まれて、武士達が戦時に籠る曲輪などがいくつも集まっている山城の跡が、県内各地に数多く残っています。実際は、いざという時の拠点として残していたとも言われ、山城では、鉄砲や弓などの軍事訓練が行われることもありました。

中世以来の守護大名であり、戦国時代末には九州全土を平定する勢いだった薩摩の島津氏は、豊臣秀吉の九州平定で敗れ、領地を大幅に削減されましたが、武士の数は減らしませんでした。このため、薩摩藩は他の藩より武士の割合が高くなり、全人口の4分の1程度を武士が占めていました。そこで、他の藩のように、本城である鹿児島城の城下に全ての武士を集住させることができず、独自の外城制度として、各地の山城の周辺に「麓」（武家屋敷群）をつくり、数十人から時には数千人を配置することにしました。こうして、各地に武士団の集住地が存在する、薩摩藩独自の制度が生まれたのです。麓は、シラス台地の端にある山城と近くを流れる川に挟まれた、防御に適した場所に多く作られ、その数は、江戸時代末の薩摩藩領内には113か所もありました。



きよしまじょうあと ほりきり
清色城跡（堀切）

麓の中心には、「仮屋」と呼ばれた役所や、私領の場合は領主の屋敷がありました。その周囲を「馬場」と呼ばれる何本かの広い道と、人が歩ける程度の狭い道とで町割され、その間に武家屋敷がそれぞれ隣接するように配置されました。



かもうおかりやもん
蒲生御仮屋門

馬場は、メインストリートであると同時に、武士達が馬術の鍛錬をする場所でした。道の両側の武家屋敷は、近くを流れる川から持ってきた玉石等で作られた石垣と、その上に設けられた高い生垣に囲まれており、屋敷内から攻撃しやすい造りです。屋敷内に入ろうとすると、門と玄関の間にも石垣や生垣があり、まっすぐには進めません。逆に主の部屋の縁側から顔を出すと、入口まで見通せて来訪者を確認できます。これらは、全て侵入者に対する備えであり、麓はまるで、城の中のように敵に備えて作られていることがわかります。そのような中でも庭園の多くは、付近の山城などを借景として美しく造られており、山城と麓の一体化した景観を象徴しています。



しぶしふもと
志布志麓

国境にある出水麓には3,000人近い武士が配置され、近くの野間の関では、厳しい検問が行われました。鹿児島弁が他の地方の言葉と著しく異なることを利用して、幕府の隠密を見つけ出していたとも言われています。薩摩藩は、関ヶ原の戦いでは敗れた西軍に属し、戦いのあと、藩内に臨戦態勢を敷きながら、幕府と交渉し、ようやく領地を安堵されたことから、幕府や隣接する藩への警戒感が強い藩だったのです。海上交通の要衝にある手打麓や志布志麓などには、交易船を取り締まる津口番所がありました。



知覧麓庭園



出水麓



【薩摩の武士団】



お長屋 (垂水麓)

麓の子ども達は、郷中教育といって、集津口番所跡(手打麓)落ごとに年長者が年少者を教える集団教育の方法で育てられました。その教材として、戦国時代に加世田麓を治めた島津忠良が作った日新公いろは歌(古の道を聞きても唱へても我が行にせずばかひなし)などの人生訓が使われました。その精神は、今の鹿児島の教育にも受け継がれています。郷中教育では、相撲や剣術(示現流)など体を鍛える修練や詮議という解決策を皆で考えあう訓練が重んじられていました。幕府や他の藩の武士達が、平和な江戸時代に次第に官僚化し武芸を疎かにしていく一方で、麓の武士達は、地方行政を担う傍ら武芸の鍛錬にはげみ、他の麓との武芸の対抗戦を行うことで、更に磨きをかけました。禄高が低い武士達の多くは農耕に従事し生活しており、また、用水路や石橋の築造を行うこともあったため、普段から体を鍛えることになり、麓の武士達は、日本最強といわれる武士団となっていました。

幕末期、薩摩藩の軍事力の土台となったのが、麓の武士達でした。彼らが出陣する際には、普段、一緒に訓練している麓を中心とした「郷(外城)」という地区を単位とした部隊編成が行われています。薩摩藩の風土が生んだ麓、その麓で鍛錬していた藩内各地の武士達の活躍が、明治維新を成し遂げるための大きな力となり、我が国を近代へと突き動かしていくのです。

このような薩摩の武士達も、豚骨料理やつけあげを肴に焼酎で「ダレヤメ(疲れを取るための晩酌の意)」をしたり、温泉で鍛えた体を癒したりしました。武士ならではの勇壮な祭りや農耕に従事した武士や領民を慰めるための祭りが伝えられ、武士達の信仰を集めた麓周辺の社寺等で奉納されています。農耕だけで生活できない武士が作った素朴な人形なども伝えられており、武士達の人間味あふれる側面を垣間見ることができます。



士踊り (加世田麓)

鹿児島には、最強といわれる武士団を育ててきた山城と麓を中心とした歴史的景観が、現在も大切に残されています。中世の山城跡と近世の武家屋敷群がコンパクトに体感できる独特な町並みを歩けば、どこを訪れても、往時の武士達の生き様をしのぶことができます。

「ゆくさ、おじゃったもした (ようこそ、おいでくださいました) 鹿児島」

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	かごしまじょうあと しroyama 鹿児島城跡(城山)	国天然記念物 及び史跡	南北朝時代は上山氏の山城。シラス地形特有の地形を生かし、関ヶ原の戦いの後、麓に館を加え、鹿児島城となる。	鹿児島市
②	かごしまじょうおおてぐちあと 鹿児島城 大手口跡	未指定 (史跡)	三口番所(ミクチバンドコロ)の一つ。衛士が配備され、上山城(城山)への立入を制限した。現在の照国神社西方登山道入り口付近。	鹿児島市
③	かごしまじょうしんしょういんぐちあと 鹿児島城 新照院口跡	未指定 (史跡)	三口番所(ミクチバンドコロ)の一つ。大手口と同様に衛士が配備され、上山城(城山)への立入を制限した。新照院越を登り詰めた位置付近。	鹿児島市
④	かごしまじょういわさきぐちあと 鹿児島城 岩崎口跡	未指定 (史跡)	三口番所(ミクチバンドコロ)の一つ。大手口と同様に衛士が配備され、上山城(城山)への立入を制限した。岩崎谷入口付近。	鹿児島市
⑤	かごしまじょうほんまるあと 鹿児島城 本丸跡	県史跡	初代藩主島津家久によってつくられた島津家の居城。本城ともよばれ、城下町形成及び外城制度の中心となる。	鹿児島市
⑥	かごしまじょうにのまるあと 鹿児島城 二之丸跡	未指定 (史跡)	藩主の嫡子や諸子、また隠居した藩主が居住した。県立図書館の周囲の石垣にその面影を残している。	鹿児島城
⑦	たんしょうえん 探勝園	未指定 (史跡)	鹿児島城二之丸庭園で、25代当主重豪のときにつくられた。はじめ千秋園と呼ばれていた。斉彬・久光・忠義の銅像がある。	鹿児島市
⑧	てるくにじんじや 照国神社	未指定 (史跡)	鹿児島城二之丸に隣接し、天台宗巨剎南泉院があった場所で、廃仏毀釈後は島津家代々の総社として鶴嶺神社が創建された。	鹿児島市
⑨	しがっこうあといしべい 私学校跡石塀	県史跡	鹿児島城の御厩跡で、薩摩藩牛馬行政の中心であったが、その後私学校となる。弾痕跡が残る石塀が今も趣を残している。	鹿児島市
⑩	てんぼうねんかんかごしまじょうかえず 天保年間鹿児島城下絵図	市有形 (歴史資料)	天保年間のもので、近世鹿児島城下の実情を具体的かつ正確に伝える歴史資料。鹿児島市立美術館蔵。	鹿児島市
⑪	きいれもとふもと 喜入旧麓	未指定 (伝建)	喜入領主肝付氏が所領していた。湧水の水路のある通りに武家門や石垣などが残る。	鹿児島市

⑫	きいれいじょうあと 給黎城跡	未指定 (史跡)	喜入旧麓の背後にある山城跡。武芸の稽古をした馬乗り馬場、激しい戦いの話が伝わる何万ヶ宇都などの地名が残る。島津氏がこの城を手に入れたことを祝って「給黎」から「喜入」となったといわれる。	鹿児島市
⑬	きもつきげれきだいぼち 肝付家歴代墓地	未指定 (史跡)	喜入旧麓を所領していた肝付家の墓所である。幕末に活躍した小松帯刀の父・兼善などが眠っている。	鹿児島市
⑭	みなみかたじんじや 南方神社	未指定 (史跡)	喜入旧麓にあり、給黎城跡の南側に位置する。永禄8年(1565)に島津一族の喜入季久により再建されたといわれる。	鹿児島市
⑮	こべがぶち 香梅ヶ淵	未指定 (史跡)	喜入旧麓にあり、時の領主の侍女「香梅」の悲話が残る淵。エメラルドグリーン色の水はとても美しく、透き通っている。	鹿児島市
⑯	いずみふもと 出水麓	国重伝建	藩境に設けられた麓で、3,000人近い武士が配置された。武家屋敷の建物や石垣、武家門等が現存する。	出水市
⑰	しろやま 城山 (かめがじょう はなみがじょう) (亀ヶ城・花見ヶ城)	市史跡	出水麓地区は、戦国期に出水地方を治めた薩州家の本拠地である城山の麓に形成されており、城山は藩政期の統治者の権力を象徴する存在である。	出水市
⑱	いずみおかりやもん 出水御仮屋門	国重伝建 県有形 (建造物)	16世紀末頃の建造とされ、腕木3本で軒を支える他に例を見ない構造が特徴の控柱付腕木門である。現在は、出水小学校の正門となっている。	出水市
⑲	きゅうさいしよけじゅうたく 旧税所家住宅	国重伝建 市有形 (建造物)	出水麓にある屋敷。雨天時の弓の練習場や、隠れ部屋、抜け道などがあった。	出水市
⑳	きゅうたけぞえけじゅうたく 旧竹添家住宅	国重伝建 市有形 (建造物)	出水麓にある屋敷。座敷・次の間・玄関が鍵型に折れる配置が特徴的である。	出水市
㉑	のま せきあと 野間の関跡	市史跡	薩摩三大関所の一つで薩摩藩北の守り「出水麓」を象徴する史跡である。	出水市
㉒	いずみ たねがしまがく 出水の種子島楽	県無形 (民俗)	藩政期初頭から伝えられてきた、種子島由来の踊りで、出水麓地区で保存され、今でも披露されている勇壮な郷土芸能。	出水市
㉓	ゆがわうちおんせん 湯川内温泉	未指定 (天然)	江戸時代、他藩からも湯治客が訪れた。現在も営業を続ける麓の武士の癒やしの湯。	出水市
㉔	いずみふもとれきしかんしゅうぞうしりょう 出水麓歴史館収蔵資料	市有形 (歴史資料)	出水麓の魅力を知ることができる資料(軍役高帳、出水兵児修養掟など)がある。	出水市

②⑤	たるみずふもと 垂水麓	未指定 (伝建)	林之城周辺は、当時の垂水麓町の通りを活用して、住宅地となっている。馬場通、犬之馬場通など現在も通りの名称や武家門が残る。	垂水市
②⑥	ほやしじょうあと 林之城跡	未指定 (史跡)	幕藩体制下、垂水麓集落の中心となった林之城（後に仮屋）跡地である。当時領主であった垂水島津家の屋敷である。現在は垂水小学校となっている。	垂水市
②⑦	ながや お長屋	県有形 (建造物)	お長屋は垂水島津家の屋敷であった林之城の城郭関連施設であり、石垣上に構築される多聞櫓の一部である。度重なる改修を受けているが、主体をなす柱や梁、石垣は建築当時のものが残存している。	垂水市
②⑧	たるみずしまづげほしよ 垂水島津家墓所	市史跡	垂水麓を所領していた垂水島津家の墓所である。垂水島津家の菩提寺であった心翁寺の一部である。	垂水市
②⑨	でんかじんじや お殿加神社	未指定 (史跡)	垂水麓の領主、垂水島津家初代忠将を祀った神社。麓の武士達の信仰を集めた。	垂水市
③⑩	たるみずにぎょう 垂水人形	未指定 (歴史資料)	こねた粘土を型枠に入れて形を作り、乾燥させたものを素焼きして、それに胡粉（顔料）を塗り、その上に色付けた素朴な人形である。江戸期には垂水麓の武士の内職であった。	垂水市
③①	いりきふもと 入来麓	国重伝建	国指定史跡「清色城跡」の麓に位置し、中世から近世にかけての地割が顕著に残る。周囲の山々と一体となり美しい緑地景観を呈している。	薩摩川内市
③②	きよしきじょうあと 清色城跡	国史跡	入来麓の背後にある中世渋谷・入来院氏の居城で、古文書等による戦の記録は無いが、曲輪、堀切、空堀、土塁などが顕著に残る。	薩摩川内市
③③	きゅうますだけじゅうたく 旧増田家住宅	国重伝建 国重文 (建造物)	明治6年頃に建てられたおもてとのかえ、大正期の石蔵などで構成される同住宅は、近世麓の武家住宅の形式を継承している。入来麓の公開施設として無料で一般開放している。	薩摩川内市
③④	かやぶき門 ^{もん}	国重伝建 市有形 (建造物)	中世渋谷氏の様式を伝えているといわれ、入来麓で唯一のかやぶき型の腕木門でシンボリック的存在となっている。	薩摩川内市

③⑤	もとむらすわ 元村諏訪神社の例祭に 伴う芸能	市無形 (民俗)	入来麓に程近い元村諏訪神社は古来入来院氏の尊崇を集め、ゴフラク(御法楽)と称する旧暦7月28日に行われる大祭では、地域内の農家に対して、太鼓踊(鉦踊)の奉納が義務づけられていた。近年は8月末頃に元村諏訪神社の大祭が行われ、五穀豊穡を祈願する伝統行事として各地域の勇壮な太鼓踊が今も奉納されている。	薩摩川内市
③⑥	いりきおんせん 入来温泉	未指定 (天然)	入来温泉は、700年の歴史を持つ入来麓に居住する領主直営の名湯で、三国名勝図会でも紹介されており、幼少の大久保利通や朝河貫一博士が訪れた記録が残る。	薩摩川内市
③⑦	すわおんせん 諏訪温泉	未指定 (天然)	諏訪温泉は300年の歴史を持ち、江戸時代において入来麓から最も近い温泉場であった。	薩摩川内市
③⑧	いりききょうどかんしゅうぞうしりょう 入来郷土館収蔵資料	未指定 (歴史資料)	入来麓の中にあり、入来全域の展示であるが、入来院家文書のコピーや朝河貫一博士の署名入り冊子(入来文書)などを展示している。	薩摩川内市
③⑨	さとふもと 里麓	市史跡	上甕島里地区に所在する。中世小川氏の居城であった「亀城」のほど近くに位置し、整然と積み上げられた玉石垣と生垣による町並みが残る。	薩摩川内市
④⑩	かめじょうあと 亀城跡	市史跡	通称「城山」ともいわれ、中世、甕島を統治した小川氏の居城であった。	薩摩川内市
④⑪	さとむしやおどり 里の武者踊	市無形 (民俗)	武士踊は古来、里町と下甕町手打において行われており、里の武者踊は出陣、手打の武士踊は凱旋の踊りであったとされている。	薩摩川内市
④⑫	てうちふもと 手打麓	未指定 (伝建)	下甕島手打地区に所在し、玉石垣の続く町並みが今も残る。江戸時代、甕島は異国船監視の拠点であり、手打港近くの津口番所では幕府による出入り船舶の取調べが行われた。	薩摩川内市
④⑬	つぐちばんしよあと 津口番所跡	未指定 (史跡)	江戸時代、甕島は異国船監視の拠点であり、手打港近くの津口番所では幕府による出入り船舶の取調べが行われた。	薩摩川内市
④⑭	ぶしおどり 武士踊	市無形 (民俗)	一説によると、鎌倉時代小川氏が甕島に下向した折にもたらされたものであり、その後、島津氏が甕島を統治し、関ヶ原の戦い等への出陣、凱旋を機会に奨励されたといわれている。	薩摩川内市

④5	くしきのふもと 串木野麓	未指定 (伝建)	美しい武家門、江戸時代の石製下水道管、石垣、古い屋敷などが残る。麓の武家屋敷には西郷隆盛の書などが残されている。	いちき串木野市
④6	くしきのじょうあと 串木野城跡	未指定 (史跡)	串木野麓の背後にある山城。戦国時代末期には猛将として知られる島津家久が地頭として治めていた。	いちき串木野市
④7	じとうかりやあと 地頭仮屋跡	未指定 (史跡)	串木野麓の地頭仮屋は、石垣が当時のまま残っている。	いちき串木野市
④8	きゅういりきていぶけやしき 旧入来邸武家屋敷	市史跡	串木野麓における幕末期の武家屋敷である。木造平屋建、入母屋造棧瓦葺で、建具や天井、欄間などに意匠をみせる大規模近代和風住宅である。また、庭木として植えられている犬槇及び五葉松も江戸時代頃と考えられる。	いちき串木野市
④9	くしきのきんざん 串木野金山	未指定 (史跡)	串木野金山の収益は、明治維新を牽引する薩摩藩の大切な財源であった。現在でも金の一部採掘及び製錬は続いており、今までの採掘量は全国4位である。	いちき串木野市
⑤0	かせだふもと 加世田麓	未指定 (伝建)	武家門、石垣、屋敷の前を流れる水路、古い屋敷が残る。	南さつま市
・	きゅうあじさかいいん 旧鯨坂医院	国登録有形 (建造物)	加世田麓に昭和前期に鯨坂茂彦氏が建設した医院。木造平屋瓦葺き。石垣は当時のものが残っている。	南さつま市
・	さめしま たけし けじゅうたく 鮫島(健志)家住宅	国登録有形 (建造物)	加世田麓の明治後期(35年頃)築造の武家住宅。鮫島家は農園・漁業などの事業や南薩摩銀行を創業した。江戸期の武家屋敷の造りを受け継いでおり、石垣や生垣は当時のものが残る。	南さつま市
・	さめしまひろしけじゅうたく 鮫島博家住宅	国登録有形 (建造物)	加世田麓の明治前期(10年頃)築造の武家住宅。室内は朱色の土壁を塗り、奥座敷のトコ脇には軍配形窓を穿ち、瀟洒な内観となっている。江戸期の武家屋敷の造りを受け継いでおり、石垣や生垣は当時のものが残る。	南さつま市
・	きゅうあじさかけじゅうたく 旧鯨坂家住宅	国登録有形 (建造物)	明治後期(35年頃)築造の武家住宅。室内壁を朱色とし精緻な欄間をたてるなど麓集落加世田の武家屋敷の造りを良好に受け継いでおり、石垣や生垣は当時のものが残る。	南さつま市
・	たけだじんじや 竹田神社	未指定 (史跡)	竹田神社は加世田麓の南に位置し、島津中興の祖日新公忠良を祭る。日新公墓へ続く「いにしへの道」は、イヌマキ並木の散策道で、領主島津忠良が作った日新公いろは歌の石碑が並ぶ。	南さつま市

・	かせだ すいしゃ 加世田の水車カラクリ	県有形 (民俗)	7月23日、竹田神社の六月燈で公開されている。神社前の用水溝の上に舞台を組み、水車を利用してほぼ等身大の人形を回転させる。武士達が人形を製作し上演した勇壮なカラクリ人形。	南さつま市
・	さむらいおどり 土踊 (二才踊・稚児踊)	県無形 (民俗)	島津忠良が出陣の前に部下を集めて踊らせたのが始まりと伝えられている。二才踊と稚児踊からなり7月23日、加世田麓近くの竹田神社六月灯(夏祭り)で踊られる。	南さつま市
・	かせだ かじ 加世田鍛冶	未指定 (無形)	加世田麓にある「志耕庵」では、武士の内職として伝承されてきた加世田鎌・加世田包丁の製作体験ができる。	南さつま市
・	しぶしふもと 志布志麓	国名勝	武家門、石垣、美しい庭園、馬場と呼ばれる通りなどが残る。麓内の湧き水は、名水として知られており、人々が汲みに訪れる。	志布志市
・	しぶしじょうあと 志布志城跡	国史跡	中世以降の志布志を巡る争いの中で前線の拠点として築かれた大規模な山城。麓集落はこの城跡の周囲に形成されている。広大な城域が城下の武家屋敷を含めて景観とともによく保存されている。	志布志市
・	じとうかりやあと 地頭仮屋跡	市史跡	地頭仮屋跡は内城南端に位置し、志布志麓の行政施設であり、現在はその石垣が残る。	志布志市
・	しぶしふもとていえん 志布志麓庭園 (天水氏庭園)	国名勝	築山枯山水様式を取り入れた庭園で、江戸中期の作と伝えられている。借景に志布志城(内城)を配しており、景観に深く奥行きを見せている。	志布志市
・	しぶしふもとていえん 志布志麓庭園 (福山氏庭園)	国名勝	築山枯山水様式を取り入れた庭園で、庭門を入ると築山の前面に広い前庭を持ち、武芸の鍛錬場として利用されていた。生垣越しに古刹宝満寺の躰と背後の山並みを借景としていた。	志布志市
・	しぶしふもとていえん 志布志麓庭園 (平山氏庭園)	国名勝	古寺石峯寺時代の住職により江戸初期に作庭されたと推定される、築山鑑賞式の庭園である。大岩の崖を主景としその上にサツキ・ツツジを配して青々とした山の景観を表現している。	志布志市
・	きよみず していえん 清水氏庭園	国登録記念物 (名勝)	志布志麓に居住していた武士の作庭であり、前川と背後の自然景観を借景としている。	志布志市

・	とりほましていえん 鳥濱氏庭園	国登録記念物 (名勝)	志布志麓に居住していた武士の作庭であり、志布志城跡の自然景観を借景としている。	志布志市
・	つぐちばんしよあと 津口番所跡	市史跡	前川河口にあり、藩政時代、廻船・貿易船の積荷を取り締まるため、麓の武士が常駐していた。現在は石垣が当時の面影を残す。	志布志市
・	ほうまんじあと 宝満寺跡	県史跡	奈良時代創建といわれる宝満寺は、志布志麓の寺として、麓の武士の信仰を集めてきた。現在は宝満寺公園として、お釈迦まつりの会場として、また志布志麓の歴史観光拠点の1つとなっている。	志布志市
・	だいじじ 大慈寺	未指定 (史跡)	大慈寺には多くの書籍・絵画・彫刻が今も残されている。最盛期には8町四方の寺域を有し、16の支院があり、禅門に学ぶ雲水が100名を越え、地方僧俗の学問拠点として栄えた。志布志麓の武士の学問の場でもあった。	志布志市
・	ちらんふもと 知覧麓	国重伝建 国名勝	武家門、石垣、美しい庭園、古い屋敷、馬場と呼ばれる通りなどが残る。通りに面した石垣の上に生垣が連なり、庭園都市的な造りで、薩摩の小京都と呼ばれるほど美しい。	南九州市
・	ちらんじょうあと 知覧城跡	国史跡	南九州の中世城郭を代表する城跡で、知覧麓の武士たちの母体で、知覧麓の原型。シラス地形特有の直立した崖を利用している。	南九州市
・	きつこうじょうあと 亀甲城跡	国重伝建 市史跡	中世、知覧城の出城で、地形が巻貝の蝸に似てらせん状になっていることから「蝸尻城」とも呼ばれている。	南九州市
・	きゅうたきてい たきあん 旧高城邸と高城庵	国重伝建	知覧麓にある茅葺屋根の旧高城邸は、知覧型二ツ家の形態を残す江戸時代からの武家屋敷、母屋では隣接する食事処高城庵が薩摩の郷土料理などを観光客に提供している。	南九州市
・	ちらんがたふたつやみんか 知覧型二ツ家民家	国重伝建 市有形 (建造物)	オモチとナカエを連結した建物で棟をつなぐ形状が知覧独特であることから知覧型二ツ家と呼ばれる。近くの武家屋敷を移設したもの。	南九州市
・	ちらんふもとていえん 知覧麓庭園	国名勝	知覧を統治する武士たちの屋敷と周辺の山々を取り込んだ借景や枯山水庭園が7か所、琉球・中国の影響を受けた優れた意匠の庭園を有する。	南九州市
・	ちらんぶけやしき ちやいけがき 知覧武家屋敷の茶生垣	国重伝建	知覧麓の武家屋敷には、低木の茶の生垣が植えられている。ここにも茶どころ知覧のルーツが垣間見られる。	南九州市

・	知覧麓のメインストリート(本馬場通り)のかぎ型(かぎがた)の通りと石敢當(いしけんどう)	国重伝建市有形	知覧麓の武家屋敷の中心通り(本馬場通り)のかぎ状に折れ曲がった通りとT字状に点在する石敢當。	南九州市
・	銀杏(いちょう)の巨木(きよぼく)	未指定(天然)	樹齢約250年以上は経過しているといわれる。この木を起点にして亀甲城の山頂に向け真直ぐに知覧麓の本馬場通りを造ったと伝わる。	南九州市
・	島津墓地(しまづぼち)	市史跡	知覧麓を所領していた知覧島津氏の菩提寺で歴代の領主や西福寺の僧侶の墓などがある。	南九州市
・	豊玉姫神社(とよたまひめじんじや)と水車(すいしや)からくり	国選択無形県有形(民俗)	16世紀末に知覧麓から祭神を現豊玉姫神社へ移動、毎年7月9・10日に勇壮な水車カラクリが行われる。麓の武士が人形を製作した。	南九州市
・	豊玉姫陵(とよたまひめりょう)	未指定(史跡)	知覧麓の亀甲城下の田んぼにある豊玉姫神社の祭神豊玉姫の陵墓で、鋤を入れてはならないという言い伝えがある。	南九州市
・	知覧傘提灯(ちらんかさちようちん)	未指定(無形)	知覧麓に江戸時代から続く工芸品の一つ。武士の内職として富永家に伝わる竹製工芸品。	南九州市
・	矢櫃橋(やびつはし)	市史跡	知覧麓の武士、瀬戸口某が嘉永5(1853)に築いた眼鏡橋で度重なる大洪水でもびくともしない景観にマッチした美しい橋。	南九州市
・	ミュージアム知覧収蔵資料(ちらん)	未指定(工芸品)	ミュージアム知覧には、知覧麓の武家屋敷から寄託・寄贈された近世・近代の琉球漆器が多数展示・保管されている。琉球と関係が深かった薩摩藩時代の痕跡の証でもある。	南九州市
・	蒲生麓(かもうふもと)	未指定(伝建)	麓は9本の馬場と3本の小路で整然と区画割されている。現在は、西馬場に武家門をもつ武家屋敷群が残る。	始良市
・	蒲生城跡(かもうじょうあと)	未指定(史跡)	保安4年(1123)～弘治3年(1557)蒲生を治めた蒲生氏の本城。江戸時代中頃までの地頭仮屋は城の北麓(迫地区)にあったとされる。	始良市
・	蒲生御仮屋門(かもうおかりやもん)	県有形(建造物)	始良市蒲生総合支所にある蒲生麓の地頭仮屋の正門で、政治行政の中心。文政9年(1826)建立の控柱付腕木門。	始良市
・	御仮屋犬槇(おんかりやいぬまき) (一ツ葉)	市天然	樹齢400年といわれている犬槇で、蒲生麓の御仮屋門の脇に植えられていた。犬槇の生垣は、鹿児島県の麓に多用されている。	始良市

・	かもう はちまんじんじや 蒲生八幡神社	未指定 (史跡)	保安4年(1123)に蒲生氏初代舜清が豊前国宇佐八幡を勧請し創建。麓の北西端に位置し、蒲生の総社として麓の武士の信仰を集めた。勇壮な太鼓踊りの舞台である。	始良市
・	かもう 蒲生のクス	国特別天然	樹高30メートル、幹囲は24メートルに達し、全国巨樹・巨木林調査の結果からみて、全国一の太さを誇る巨樹である。八幡神社境内にあり、麓の武士達の信仰の対象であった。神社が建立された当時(1123年)にすでに神木とされていたことから考えて、樹齢千年を越す堂々たる老木である。	始良市
・	たいこおど 太鼓踊り	市無形 (民俗)	毎年8月21日に4つの保存会が、蒲生麓の辻通りと蒲生八幡神社境内で勇壮な太鼓踊りを奉納。	始良市
・	かもう かみす 蒲生の紙漉き	未指定 (無形民俗)	正保2年(1647)、藩が蒲生の下級武士に御用紙を製造させたことに始まる手漉き和紙づくり。	始良市
・	かけはしざか 掛橋坂	県史跡	掛橋坂は蒲生麓と薩摩国の蘭牟田・祁答院方面を結ぶ江戸時代の地方街道にあり、蒲生麓が管理していた。年貢米の輸送路として難所であったこの坂は石畳道に整備された。	始良市
・	いもしょうちゅう 芋焼酎	生活文化	芋焼酎は、古くから武士達も愛飲していたが、幕末の薩摩藩主、島津斉彬が製法の改良を研究させ明治時代に改良に成功したといわれている。	鹿児島市、出水市、垂水市、薩摩川内市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、南九州市、始良市
・	つけあげ (さつまあげ)	生活文化	島津斉彬が、はんぺんやかまぼこを基に開発させたという説がある。県内ほとんどの麓で食べられていた。	鹿児島市、出水市、垂水市、薩摩川内市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、南九州市、始良市

構成文化財の写真一覧

① 鹿児島城跡（城山）



④ 鹿児島城岩崎口跡



② 鹿児島城大手口跡



⑤ 鹿児島城本丸跡



③ 鹿児島城新照院口跡



⑥ 鹿児島城二之丸跡



⑦ 探勝園



⑩ 天保年間城下絵図



⑧ 照国神社



⑪ 喜入旧麓



⑨ 私学校跡石塀



⑫ 給黎城跡



⑬ 肝付家歴代墓地



⑯ 出水麓



⑭ 南方神社



⑰ 城山 (亀ヶ城・花見ヶ城)



⑮ 香梅ヶ淵



⑱ 出水御飯屋門



⑱ 旧税所家住宅



㉒ 出水の種子島楽



㉓ 旧竹添家住宅



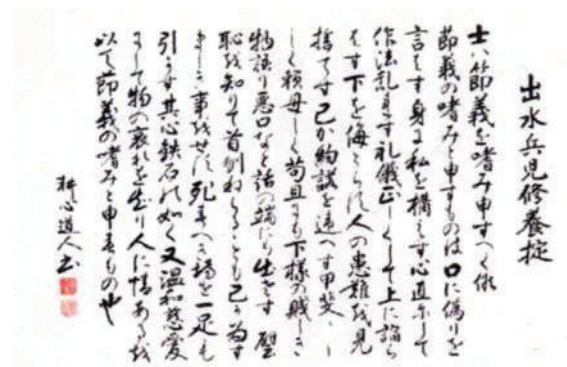
㉔ 湯川内温泉



㉕ 野間の関跡



㉖ 出水麓歴史館収蔵資料
(出水兵児修養掟)



②⑤ 垂水麓



②⑧ 垂水島津家墓所



②⑥ 林之城跡



②⑨ お殿加神社



②⑦ お長屋



③⑩ 垂水人形



③① 入来麓



③④ かやぶき門



③② 清色城跡



③⑤ 元村諏訪神社の例祭に伴う芸能



③③ 旧増田家住宅



③⑥ 入来温泉



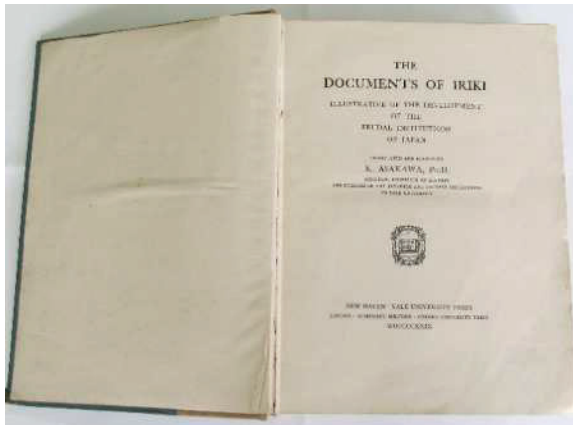
③7 諏訪温泉



④0 亀城跡



③8 入来郷土館収蔵資料 (入来文書)



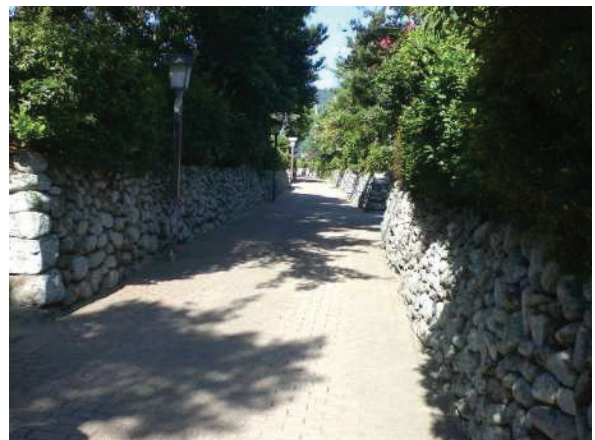
④1 里の武者踊



③9 里麓



④2 手打麓



④③ 津口番所跡



④⑥ 串木野城跡 (堀切)



④④ 武士踊



④⑦ 地頭仮屋跡



④⑤ 串木野麓



④⑧ 旧入来邸武家屋敷



④⑨ 串木野金山



・ 鮫島 (健志) 家住宅



⑤⑩ 加世田麓



・ 鮫島博家住宅



・ 旧鯨坂医院



・ 旧鯨坂家住宅



- ・ 竹田神社



- ・ 加世田鍛冶



- ・ 加世田の水車カラクリ



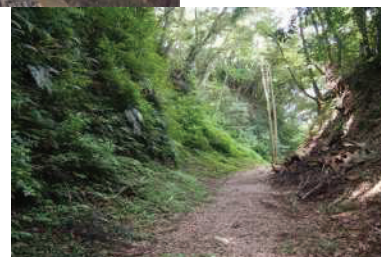
- ・ 志布志麓



- ・ 土踊 (二才踊・稚児踊)



- ・ 志布志城跡



- 地頭仮屋跡



- 志布志麓庭園 (平山氏庭園)



- 志布志麓庭園 (天水氏庭園)



- 清水氏庭園



- 志布志麓庭園 (福山氏庭園)



- 鳥濱氏庭園



- ・ 津口番所跡



- ・ 知覧麓



- ・ 宝満寺跡



- ・ 知覧城跡



- ・ 大慈寺



- ・ 亀甲城跡



- ・ 旧高城邸と高城庵



- ・ 知覧武家屋敷の茶生垣



- ・ 知覧型二ツ家民家



- ・ 知覧麓のメインストリート（本馬場通り）のかぎ型の通りと石敢當



- ・ 知覧麓庭園



- ・ 銀杏の巨木



- ・ 島津墓地



- ・ 知覧傘提灯



- ・ 豊玉姫神社と水車からくり



- ・ 矢櫃橋



- ・ 豊玉姫陵



- ・ ミュージアム知覧収蔵資料
(黒漆梅螺鈿八角盆)



- ・ 蒲生麓



- ・ 御仮屋犬槇 (一ツ葉)



- ・ 蒲生城跡



- ・ 蒲生八幡神社



- ・ 蒲生御仮屋門



- ・ 蒲生のクス



- ・ 太鼓踊り



- ・ 芋焼酎



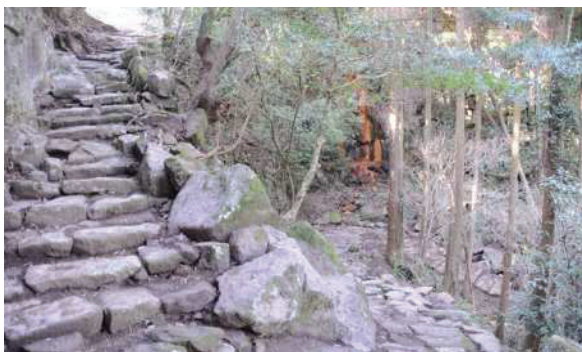
- ・ つけあげ (さつま揚げ)



- ・ 蒲生の紙漉き



- ・ 掛橋坂



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
82	薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～

(1) 将来像 (ビジョン)

薩摩藩の藩主である島津氏は、鎌倉時代より幾多の危機を乗り越え、明治4年の廃藩置県まで鹿児島県の地を治めてきた。このように鹿児島県は、一貫した島津氏の支配により、独自の制度や文化を有した希有な地域となる。また、鹿児島県は桜島で知られるように多くの活火山が存在し、有史以来多くの噴火を繰り返してきたが、文化(財)・伝統に多くの恩恵を与え、そして鹿児島県の景観を作り出している。この独自性や文化をストーリーとした、「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」は令和元年度に日本遺産に認定された。

こうした鹿児島県の歴史的価値を、各地域が「麓」を中心にそれぞれ独自の自然・歴史・文化・伝統等の地域資源の魅力を最大限に引き出し、活かし、地域住民が誇りを持ち、来訪者がどこか懐かしく、どこか安心できる、そして、何度も訪れたいくなるような地域になることを目指す。そのような将来像としたい。

薩摩の独自性のなかの、文化やストーリーを活かした魅力を発信し、体感してもらい、興味を駆り立て、点在する「麓」を面的に訪れてもらう、普遍的な周遊の実現

2019年度に策定した地域活性化計画では、次のとおり将来ビジョンを示した。

①多くの観光客が訪れる地域 ②多くの観光客が満足する地域 ③経済が活性化し、持続可能な地域 ④郷土を愛する気持ちにあふれた地域

～来訪者(2019年からの取組)～

【①多くの観光客が訪れ、②満足する地域】

・PR動画やモニターツアーを制作し、YouTubeで配信を行うことにより、県内外へPRすることが出来た。

・周遊ルートの開発や、スタンプラリー、フォトコンテスト等を実施することにより、来訪者を他の麓へ促すことが出来た。

しかし、認定されてから、すぐにコロナ禍となったことから、各事業の公報活動も県外へのPRより、県内向けになっていった。



～未来の来訪者～

各地に点在する武家屋敷群「麓」は、地域の文化、地域の環境に適応した武家屋敷として、今なお往時の姿を留めている。また、各麓一つひとつに伝承や伝統が残り、麓の数だけストーリーがある。国内外へ麓の風景やストーリー等を発信し、少しでも興味を持ってもらい、一度麓に足を踏み入れた来訪者は、武家屋敷の姿や伝統に触れ、より歴史に親しみ、何度でも訪れたいとなり、歩きたいとなる「麓」となっている。

～地域住民（2019年からの取組）～

【③経済が活性化し持続可能な地域と④郷土を愛する気持ちにあふれた地域】

・日本遺産のロゴマークや当協議会のロゴマークを使用したアイテムの作成や、焼酎の開発・販売など実績を挙げることは出来た。

・「ガイド向けワークショップ」、「出前授業」、「シンポジウムの開催」を通じて、麓の認知度向上、郷土を愛する割合の増加など一定の効果は得られた。

しかし、実績や効果を得る一方で、商品については、消費者へのPRが不足であったこと、本質である構成文化財の伝統工芸や伝統芸能について、担い手不足を感じながら、継承に関する施策を実施することが出来なかったこと、「ガイド向けワークショップ」、「出前授業」など地域の歴史に興味があり、参加した方が還元できる場面が作れなかったこと、が反省点としてあげられる。



～未来の地域住民～

郷土の歴史・文化に誰もが誇りを持ち、地域を訪れた方々に誰もが地域の魅力を語れる。そして、地域の若い世代が伝統工芸品や伝統芸能に触れ、体験し、学ぶことにより、地域の郷土や伝統に誇りや愛着心が生まれ、将来の担い手となり、継承し続ける。また、伝統工芸品などを含めた日本遺産ブランドの商品を地域が誇りを持って販売する。

<鹿児島県の長期総合計画等の位置づけ>

2022年に改訂された「かごしま未来創造ビジョン」において、文化としては、「地域を愛し世界に通用する人材の育成、文化・スポーツの振興」、観光としては、「観光の「稼ぐ力」の向上」を基本方向として位置づけている。

同ビジョンの「地域を愛し世界に通用する人材の育成、文化・スポーツの振興」の施策では、文化芸術の促進や人材育成、情報発信のほか、地域文化の継承・発展と地域づくり活用を掲げている。

また、「観光の「稼ぐ力」の向上」では、①国内外における戦略的なPRの展開、②魅力ある癒やしの観光地の形成、③戦略的な誘客の展開、④オール鹿児島でのおもてなしの推進という4施策を掲げている。そして、「かごしま未来創造ビジョン」を踏まえ、策定された「鹿児島県観光振興基本方針」においては、施策の展開例として日本遺産の活用の促進を挙げている。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-A：各麓への観光客入込み数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	407,770	550,072	427,231 (1月時点)	570,000	590,000	610,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		構成文化財の麓への来訪者数を指標とし、麓内の構成文化財施設や関連施設で来訪者数の把握を行う。また、目標数値は、2023年度を基準とし、目標設定値は、交通アクセスなどの要因により、各麓別で設定を行い、合算したものとする。3年間で約10%の増加率とし、年2万人増を目指す。				

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：体験コンテンツ数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	11	11	18	24	30	36
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		日本遺産認定前から観光地として観光コンテンツの取組を行っていた地域は、体験コンテンツや体験者の数は多いが、認定後は、コロナ禍もあり、新しく体験コンテンツを作り出すことが停滞した。2024年の既存体験コンテンツ数は18コンテンツだが、新たなメニュー18コンテンツを作り出すことを目標とする。				

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-A：地域の文化に誇りを感じる住民の割合						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	—	—	—	80%	85%	90%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		毎年1回実施しているシンポジウムは、構成市を巡回し実施している。令和7年度は出水麓、8年度は串木野麓、9年度は志布志麓で実施する。歴史ファンだけでなく、県民、地元住民も多く参加することから、シンポジウムのアンケートに「地域の文化に誇りを持つ」の新たな項目を作り、「誇りを持つ」割合について、				

	2025年度は80%の目標値を設定し、最終年度は90%への上昇を目指す。
--	--------------------------------------

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：薩摩の武士を体感出来る旅行商品数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	9	9	21	26	31	38
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		協議会では旅行商品造成に取組み、モニターツアーやオンラインツアーを実施してきたが、構成文化財が県下一円に広がることから、宿泊日数や移動距離の課題もあるので、よりミニマムな旅行として、地域主体の旅行商品の造成に取組み、旅行商品数の充実を図ることを目指す。各麓で1つの旅行商品11増に、半数の麓がさらに1つ旅行商品造成を目指した、17商品増を目標値とする。				

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の構成文化財のうち、無形民俗文化財の実施割合						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	—	—	—	100%	100%	100%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		無形民俗文化財は、全国的に担い手不足による縮小、休止が課題になっているが、当日本遺産の構成文化財のうち、年中行事として実施されている無形民俗文化財（種子島楽、諏訪神社例祭に伴う芸能、里の武者踊、武士踊、水車カラクリ、土踊、太鼓踊）について、100%の実施率を目標とする。また、合せて担い手拡大や継承に向けて、実施団体と参加希望者の架け橋となるよう目指していく。				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：観光客入込み数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	16,550,044	18,545,402	17,323,065 (1月時点)	21,494,187	22,102,513	22,710,839

指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	構成9市の観光客入込み数の合計数を指標とし、コロナ禍前の認定1年目からの数値目標を再目標とした。毎年2%の上昇率を目指す。
-------------------------	---

(3) 地域活性化のための取組の概要

地域の現状とこれまでの成果，そして課題

現状

鹿児島県は、南北 600 kmに及ぶ広大な県土の中に、美しい豊かな自然環境や良好な景観、良質豊かな温泉、個性ある歴史・文化・伝統工芸など多様で特色のある地域資源を観光資源とし、「観光立県かごしま」の実現を目指している。「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」もそうした観光資源として位置づけている。

武家屋敷群「麓」を中心とした、日本遺産の構成文化財は北薩地域、南薩地域、始良・伊佐地域、大隅地域と本県本土全域に所在するシリアル型で、関係自治体は県と9市となる。日本遺産認定前から観光地として全国的に知られていた地域もあれば、認定後に認知された地域もあり、知名度に格差が生じていた。このような認定時の現状から、協議会を設立して以降、令和元年度地域活性化計画で示した取組については、大きく「国内外へのアクション」、「地域へのアクション」の2つの取組に分けられる。

1 国内外へのアクション

(1) 鹿児島城跡と11の麓について、知名度のある麓だけに集客しないよう、各地域の魅力をPRし、周遊を促す。

(2) 多言語化への対応

⇒ 実施事業

- ① 鹿児島城跡と11の麓への共通解説版の設置
- ② PR動画を作成し、配信するなど、本県日本遺産を認知してもらう取組を実施
- ③ スタンプラリーの実施やモデルコースの作成、オンラインツアーを制作・配信することにより、周遊を促す事業を実施
- ④ HP、パンフレットの多言語化

2 地域へのアクション

(1) 地域住民に対し、麓への理解を深め、郷土愛の醸成などの実現

(2) 商品開発や共通ロゴマークの使用の促進

⇒ 実施事業

- ① シンポジウムの開催
- ② 出前授業やガイド向けワークショップの実施
- ③ 日本遺産プロデューサー派遣事業の活用等

成果

認定翌年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響で、全国的に事業は休止や規模縮小をせざるを得ない状況であったが、協議会としては、出来る事業を選択し、シンポジウムのオンライン開催、コロナ対策を取りながらのガイド向けワークショップの開催等、工夫することで前進するように努め、麓を含む構成文化財の魅力を伝え続けることで、シンポジウムの参加者数や、各事業の参加者数、麓を訪れる観光客数等、一定程度の成果を得ることは出来たと考える。

また、コロナ禍では、協議会主導の事業展開となり、各麓の独自イベントの実施は少な

い状況であったが、5類感染症に移行した2023年度からは、徐々に構成市でも、麓を活用したイベントなどが開催されるようになってきた。

課題

1 国内外へ向けての情報発信

コロナ禍の時は、県内在住者向けのPRが中心となっており、県外、海外の観光客に対して、観光コンテンツが十分に情報として検索できる環境を整備する必要がある。

2 ログマークの使用の促進

日本遺産関連商品については、焼酎で2銘柄の商品ラベルで協議会共通ロゴを使用しており、構成市が実施するイベントのチラシにも2024年からロゴ使用を行っているが、新たな商品開発等により、ブランド力の向上を図る必要がある。

3 地域文化の継承や地域づくり参加促進

地域文化の継承や地域づくりの本来の目的は、郷土愛を醸成し、それを個々の活動として地域に還元することが最大の成果であるが、出前授業やガイド向けワークショップの実施により、郷土愛の醸成については、参加者数から一定の効果はあるが、さらなる交流人口や関係人口の拡大に繋げる必要がある。

以上の課題を踏まえ、活性化計画の基本プランを明確かつ単純化し、次の取組を実践していく。

plan 1 : 観光振興＝薩摩を県内外へ、「satsuma」を世界へ

Webコンテンツや空港、港、駅、サービスエリアなどの交通拠点を活用した国内外へ向けた情報発信の強化を行い、そこから協力体制の拡大に繋げ、薩摩が一丸となり、観光振興を担っていく。

plan 2 : ブランドの確立＝「made in 麓」

各麓の特産品に協議会共通ロゴマークをつけた商品の開発と販売促進を行い、ここでしか出会えない商品、ここでしか得られないサービス、薩摩ブランドとしての「麓」を提供していく。

plan 3 : 学びから始まる地域活性化＝現代版「郷中（ごじゅう）教育」

地域の子供たちが武家屋敷「麓」や構成文化財を学び、地域に根ざした伝統文化を体感することにより、地域の誇りと愛着を育み、一人ひとりが各地域の日本遺産プレイヤーとなって、世代を超え、学び合い、活かし、高め合っていく。

この3つのplanを中心にしながらも、地域や来訪者のニーズに対応できるよう柔軟な事業の展開を進め、地域の活性に繋げていくよう実施していく。

(4) 実施体制

○実施主体 「薩摩の武士が生きた町」魅力発信推進協議会

【構成団体】 自治体：鹿児島県（教育庁文化財課，PR観光課）

鹿児島市（文化財課）

出水市（文化スポーツ課，観光交流課）

垂水市（社会教育課）

薩摩川内市（社会教育課，観光物産課）

いちき串木野市（社会教育課，シティセールス課）

南さつま市（生涯学習課，観光交流課）

志布志市（生涯学習課，シティセールス課）

南九州市（文化財課）

始良市（商工観光課）

民間団体：県観光連盟

県特産品協会

県商工会連合会

県商工会議所連合会

民間：地域プロデューサー（各麓に1名以上）

以上を中心に引続き，事業を展開していく。また，基本planを実行するにあたり，地域内の活性を担う団体，個人問わず，連携の強化を図る。以下に協議会構成団体以外の連携する団体，個人について，体制の展望を示す。

【plan1】

情報発信のための庁内，関係団体連携

- ・ 県では，戦国時代のゲームアプリを開発しており，麓とも所縁の深い人物も登場することから，共同企画を実施し，新たなファン獲得を目指す。
- ・ 構成自治体で周遊マップや観光パンフレット等を作成する際には，担当課以外が作成するものについても，麓に触れるものについては，ロゴマークを積極的に使用する。
- ・ 多言語ツールを充実させ，クルーズ船乗船客や空港利用者にPRを行うための旅行会社等との協業を目指す。

【plan2】

ブランドの確立のための連携

- ・ 麓の伝統工芸や特産品の生産者に日本遺産の趣旨を理解してもらい，麓でない入手出来ないような商品やパッケージについて商品の充実を目指す。
- ・ 各観光協会や麓の飲食店にロゴマークの入った商品の物販スペースの拡充を目指す。

【plan3】

学びから始まる地域活性のための連携

- ・ NPO法人等と協業し、地域の小中学校への出前授業やガイド向けワークショップを引続き実施していくなか、参加者が地域の日本遺産プレイヤーとして活躍出来る場を作っていくことを目指す。
- ・ 無形民俗文化財の保存団体や伝統工芸技術者と協業し、地域の伝統を体験できる仕組みを目指す。

[人材育成・確保の方針]

人材の育成については、主に **plan 3 (地域活性化)** の部分で特に必要であり、①無形民俗文化財、伝統工芸の継承と、②普及啓発の大きく2つの部分となる。

①、②の育成に必要な事は、「学び」、「経験」することに尽きると考える。この「学び」、「経験」の機会を多く作り出すことを目指し、各麓においてガイド向けワークショップを開催したり、学校教育との連携を図ることなどにより、事業の展開を実施していく。

また、無形民俗文化財の継承や活用人材の確保については、地域の住民の意識の向上を図る必要がある。そのためにも、実施体制で示した連携を強化していくことを目指す。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

組織の自立・自走は **plan 2 (ブランドの確立)** が柱であると考ええる。

協議会としては、協議会負担金や文化庁の補助金、その他補助金・交付金等を基礎的な財源とし、人材育成、普及啓発など協議会事業として基本的な事業を継続していく。

各地域としては、構成市と観光協会や民間企業がさらなる連携を図り、地域の活動の強化を進め、地域の伝統工芸品や特産品の商品開発や販売促進、イベント等企画運営を実施し、自走に向けた自主財源の確保に努めていくよう取組み、地域が主体となるよう、協議会も後押しをしていく。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財のうち国、県、市指定等の文化財で、その保護措置が図られているもの以外については、活用に資する状況を維持するよう適切に保存に努めていく。

一方で、人口減少や高齢化社会を背景に文化財の維持、管理については全国的な緊急課題となっており、日本遺産の構成文化財も同様に活用機会が失われれば、文化財そのものが失われる可能性もある。

そこで、まずは、地域に訪れる観光人口の増加が最初の一步と考える。そのためには、**plan 1 (観光振興)** を進め、既存の歴史ファンだけでなく、新たなファン層やニーズに沿った情報発信を行い、観光地化を目指していく。

plan 1 (観光振興) で訪問者数を呼び込み、**plan 2 (ブランドの確立)** で地域の観光消費額を増加させ、**plan 3 (地域活性化)** で地域活動の活性化を行い、保存、活用のサイクルを確立していくことを目指す。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	組織内, 間の連携強化		
概要	日本遺産関連事業の実施に際し, 固定化事業とならないよう, 様々な意見を地域, 行政内で汲み上げ, プロジェクト委員会で議論, 共有し, 新しい試みや取組の支援を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	プロジェクト委員会の開催	プロジェクト委員会は, 各地域の関係団体と地域プロデューサーを繋ぐ重要な会議と位置づけていることから, 持続的な開催が出来るように事業の取組や課題について共有し, 事業の磨き上げを行う。	協議会
②	民間事業者との連携強化	各麓でのイベントや物販の実施や協力する民間事業者と構成自治体の連携を強化し, 共催, 後援を行う。	民間事業者 構成自治体
③	行政間の連携強化	日本遺産を担当する部局以外にも, イベント毎に実施部局と連携し, 日本遺産の周知を図る。	構成自治体
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	プロジェクト委員会, 地域のワーキング会議回数		① 2 ② 3
2023	①プロジェクト委員会		① 2 ② 4
2024	②ワーキング(定例含む)会議(毎月1回開催のものは1カウント)		① 2 ② 6
2025	プロジェクト委員会, 地域のワーキング会議回数		① 2 ② 9
2026	プロジェクト委員会, 地域のワーキング会議回数		① 2 ② 12
2027	プロジェクト委員会, 地域のワーキング会議回数		① 2 ② 12
事業費	2025年度: 140千円 2026年度: 140千円 2027年度: 140千円		
継続に向けた事業設計	各構成市では, 地域住民の年齢構成や主要産業など, 環境の違いによる課題, ニーズは異なる。その異なる様々な意見を, 地域から環境整備をおこない, 個人, 企業を含め新規参入しやすい土壌を作る。 協議会では, 地域の実情を認め合い, 地域色を活かした支援ができるよう連携していく。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	構成自治体の行政計画への位置づけ
概要	日本遺産のストーリーを伝えるために、各市の行政計画に位置付け、長期的かつ持続的に構成文化財を活用していく。

	取組名	取組内容	実施主体
①	各市の総合計画等への位置付け	日本遺産を持続的に活用するため、構成市の総合計画等に位置付け、協力体制の拡大を図る。 鹿児島市総合計画：有 出水市総合計画：無（次期 2028 年～） 垂水市総合計画：無（次期 2028 年～） 薩摩川内市総合計画：無（次期 2025 年～） いちき串木野市総合計画：有 南さつま市総合振興計画：有 志布志市総合振興計画：有 南九州市総合計画：無（次期 2027 年～） （南九州市文化財保存活用地域計画：有） 始良市総合計画：無（次期 2027 年～） ※ 日本遺産の位置付け有り＝有 " 位置付け無し＝無	構成自治体
②	文化財保存活用地域計画策定に係る助言	文化財保存活用地域計画策定に関し、日本遺産の活用や、構成文化財の保存・活用・継承が推進される計画とするよう助言をおこなう。	協議会
③			
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	日本遺産が位置づけされている行政計画の数	—
2023		—
2024		4
2025	日本遺産が位置づけされている行政計画の数	5
2026	日本遺産が位置づけされている行政計画の数	5
2027	日本遺産が位置づけされている行政計画の数 (次年度予定含む)	9
事業費	2025 年度：50 千円	2026 年度：50 千円
		2027 年度：50 千円

継続に向けた
事業設計

日本遺産を行政計画に位置付けて、各自治体の取組として公表することにより、市政と連動した地域の活性化、観光振興等について、より多くの部署と連携を図る。

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	地域の担い手人口の拡大（将来の地域プレイヤーの育成）
概要	各麓のガイドの数や構成文化財の伝統工芸，伝統技術，伝統芸能の継承など，維持，活用に必要な人材の確保や育成に努める。

	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイド向けワークショップの実施	協力団体と協業し，実施しているガイド向けワークショップを継続して行う。また，参加者が活躍出来るよう観光ボランティアなどの組織に対し，受入れなどを促していく。	協議会 構成自治体 民間団体
②	出前授業の実施	2019年度から小中学校の児童生徒を中心に実施している出前授業を継続して行う。また，出前授業の実施後，参加していない学年などに対し，参加した児童生徒による発表を促すなど，新たな取組も図る。	協議会 構成自治体
③	無形民俗文化財の活動促進	無形民俗文化財を実施する際は，保存団体に対し，参加希望者の受入れなどを促すことにより活動の促進を図る。	構成自治体 民間団体
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	出前授業の参加者数（協議会実施分）	303
2023		642
2024		480（1月末時点）
2025	出前授業の参加者数（協議会実施分）	500
2026	出前授業の参加者数（協議会実施分）	500
2027	出前授業の参加者数（協議会実施分）	500

事業費	2025年度：700千円 2026年度：700千円 2027年度：700千円
継続に向けた事業設計	過年度継続した事業を引続き実施し，その中で課題があるものはブラッシュアップし，地元で誇りと愛着を持つ人口の増加に繋げていくことにより，将来の地域プレイヤーの育成を中心として実施する。構成9市各1回／年の実施を基本とし，さらなる関係人口増加を図る場合は，各地域が独自事業として出前授業を実施し，協議会は副読本を提供するなどの支援を行う。

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	文化資源の調査・整理に伴うサブストーリーの抽出
概要	新たな文化資源と既存の構成文化財を繋ぐサブストーリーを整理し、構成文化財の増加による日本遺産の魅力の深化を図る。

	取組名	取組内容	実施主体
①	文化財調査による情報収集	構成文化財とその周辺の文化資源を調査することにより、サブストーリーを生み出し、新たな素材を構成文化財に加える。	協議会 構成自治体
②	大学との連携による文化財の魅力の深化	研究機関と連携し、ストーリーの裏付けや厚みを図り、魅力の深化を図る。	協議会 構成自治体 民間団体
③	構成文化財の解説等再整備の実施	構成文化財の整理、追加をおこなったものについて、既存の解説等媒体の更新を行う。	協議会
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	構成文化財数	95
2023		95
2024		95
2025	構成文化財数	95
2026	構成文化財数	95
2027	構成文化財数	100

事業費	2025年度：325千円 2026年度：325千円 2027年度：325千円
継続に向けた事業設計	2025年度から、各麓の文化資源の掘り起しや、地域の伝承などの調査を実施し、メインストーリーに繋げていくようなサブストーリーを生み出し、日本遺産の底上げや活用範囲の拡大を目指す。また、調査の結果を大学等研究機関と共有し、歴史の裏付けや正確性を担保し、正しい歴史認識の上で活用していく。そして、大学等研究機関と情報共有を行うことにより、連携出来るような事業や巻き込むような取組等を図る。

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	構成文化財の商品販売
概要	構成文化財の伝統工芸品等を日本遺産や協議会のロゴを入れる商品パッケージを開発し、各麓の特産品として販売を行う。

	取組名	取組内容	実施主体
①	構成文化財の商品化	訪問者が記念や思い出として購入したくなる構成文化財の商品開発を実施し、協力団体と連携し販売する。	民間団体 協議会
②	体感出来る旅行商品化	日本遺産の魅力を旅行業者に伝え、連携することで、体感できるツアーの実施を進める。	民間団体 構成自治体
③	インバウンド向けコンテンツ制作	インバウンド向けの充実したコンテンツの制作を行い、交流人口の増加を図る。	協議会
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	オリジナルパッケージを活用した商品数 (構成文化財の伝統工芸品等を対象)	0
2023		1
2024		2
2025	オリジナルパッケージを活用した商品数	3
2026	オリジナルパッケージを活用した商品数	4
2027	オリジナルパッケージを活用した商品数	5

事業費	2025年度：105千円 2026年度：105千円 2027年度：105千円
-----	--

継続に向けた事業設計	令和5年度から1商品毎でロゴ入り商品は増加しているが、焼酎2銘柄と同種商品であった。今後は、構成文化財の伝統工芸品を中心にオリジナルパッケージ化を目指し、特定購買層のニーズにあった商品だけでなく、幅広い購買層をターゲットにした商品開発を行う。また、焼酎は地域を定めていない構成文化財であることから、各構成市1銘柄のロゴ入り焼酎商品を開発し、コレクション性の高い商品として販売出来るよう並行して目指していく。
------------	---

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	多様なイベントの実施		
概要	地域住民や国内外問わず，日本遺産のストーリーに触れる事が出来，楽しめる場の提供を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	シンポジウムの開催	毎年1回実施しているシンポジウムを継続して実施する。シンポジウムは，地域住民の郷土愛の醸成や日本遺産の理解を促すことも目的の一つとなる。	協議会 構成自治体 民間団体
②	各麓でのイベントの開催	官民間問わず，麓を題材にしたものや，麓内で行うもの，各地域が協力して実施するものなど，多様なイベントについて協力する。また，協議会で実施するイベントについても，ニーズに合わせて実施していく。	協議会 構成自治体 民間団体
③	パネル展の実施	より多くの方々に周知する場として，民間施設や公共施設においてパネル展示を実施し，日本遺産のPRに務める。	協議会
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	主催，共催，後援のイベント数（累計）		29
2023			32
2024			50
2025	主催，共催，後援のイベント数（累計）		53
2026	主催，共催，後援のイベント数（累計）		59
2027	主催，共催，後援のイベント数（累計）		68
事業費	2025年度：810千円　2026年度：810千円　2027年度：810千円		
継続に向けた事業設計	構成自治体や民間団体が企画するイベントにおいて，日本遺産の趣旨を踏まえたものについては，積極的に開催支援を実施していく。各麓や民間団体が連携する多様なアイデアや運営をカタチにした大小様々なイベントは，日本遺産普及啓発の大きなツールであり，持続的な開催を目指す。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	多種多様な情報発信		
概要	県内はもちろん、県内外や国外へ向けて、魅力の発信の強化を行い、日本遺産の構成文化財や周辺情報などの魅力を発信する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	HPによる発信強化	協議会や構成自治体、地域の団体による日本遺産の情報発信の強化を行う。	協議会 構成自治体 民間団体
②	SNSを活用した情報発信	各構成自治体の今の情報を発信するためのツールとしてSNSを立ち上げる。	協議会
③	行政媒体等による情報発信	公報誌や公報番組などにイベントの周知を掲載するとともに、県内外のイベントにおいて、情報の発信を行う。	協議会 構成自治体
④	民間媒体による情報発信	県内、県外のメディアにおいて、積極的に情報発信を行う。	協議会 構成自治体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	協議会及び構成9市のHP閲覧数		58,948
2023			78,508
2024			691,371(見込み)
2025	協議会及び構成9市のHP閲覧数		695,000
2026	協議会及び構成9市のHP閲覧数		697,500
2027	協議会及び構成9市のHP閲覧数		700,000
事業費	2025年度：370千円 2026年度：370千円 2027年度：370千円		
継続に向けた事業設計	各麓に関する情報を発信する媒体を活用し、より多くの方々の目に薩摩の武士が生きた町のストーリーに触れる機会を提供する。また、2019年度から今年度までに閉鎖や新たに開設したホームページもあることから、2024年に各自治体におけるHP閲覧数をカウントするサイトを見直した。なお、目標値の設定については、2024年度(見込み)を基準とした。		